

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	環境保健論		
担当者(Instructors)	渡辺 弥生	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修
実務家教員科目(Pro teacher course)			

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
自然環境や社会環境が大きく変動している今、人間の健康が環境にどのように影響されているか、健康に生きるための自然環境・人為的環境の観点から環境問題を考えることが大切である。「環境保健論」は、疾病予防・健康増進のための施策が果たしてきた役割を知るとともに、身近な生活環境により引き起こされる健康障害や各種の保健活動活動について理解し、人体と環境、生活環境の保全、地域保健活動などについて学ぶことを目的とする。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義 グループワーク DVD視聴 レポート課題
当該科目と実務との関係(Relationship between course and practice)	ここでは教員の医療専門職としての実務経験を活かし、よりリアルな症例を示す。地球規模の環境からより身近な環境を考え、成人保健、老年保健、母子保健、学校保健、産業保健の内容を環境の視点から展開する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	全体のガイダンス、授業に対する関心と希望を確認する。	☐
第2回	我が国の公衆衛生	公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の領域と活動について学ぶ。	☐
第3回	人体と環境	人間を取り巻く環境要因、環境に対する適応について学ぶ。	☐
第4回	物理環境と環境 1	気象、季節と生体、安全な空気（大気）について学ぶ。	☐
第5回	物理環境と環境 2	安全な水、上下水道、騒音、悪臭、など人体への影響について学ぶ。	☐
第6回	環境問題と健康	環境破壊の原因、大気、水質汚染の人体への影響、わが国の公害について学ぶ。	☐
第7回	地球規模での環境問題と健康 レポート課題	地球規模での環境問題、新しい環境問題、国際的な取り組みについて学ぶ。	☐
第8回	世界の保健活動	WHOの保健活動、人口政策と健康問題、国際的な取り組みについて学ぶ。	☐
第9回	感染症とその予防	感染症の動向、再興感染症（結核）について学ぶ。	☐
第10回	地域社会における健康管理活動	地域保険の考え方、活動の拠点（保健所、市町村保健センター）について学ぶ。	☐
第11回	母子の健康管理活動（母子保健）	母子保健の概要、母子保健法、主な保険事業について学ぶ。	☐
第12回	学校における保健活動	子どもに多い病気、学校保健安全法、主な学校の保健事業について学ぶ。	☐
第13回	職場における健康管理活動（産業保健）	産業保健の目的と現状、労働災害、労働衛生管理について学ぶ。	☐
第14回	職場における健康管理活動（労働衛生教育）レポート課題	労働衛生教育、対象別の健康管理、産業保健の動向と今後の課題について学ぶ。	☐
第15回	高齢者の健康管理活動、全体のまとめ、授業内テスト	高齢者の健康、各回の授業内容の復習をする。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
①授業の理解を深めるためにシラバスに関わる内容を事前に確認し、専門用語を調べておく。事前学習2時間 ②新聞やテレビなどで報道されている健康関連の記事や各種の保健医療活動について興味・関心をもっておく。事前学習を2時間程度行う。 ③本授業の振り返りとして課題

小レポートを400字以内にまとめ、次回までに提出する場合がある。事後2時間の学習を行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポートは、全体で共有する機会を持つ。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019人間健康DP1	人間が置かれている環境問題を述べるができる。健康の側面から環境について重要性を説明できる。環境から影響を受ける疾病について説明できる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019人間健康DP2	環境保全のための各ライフサイクルにおける対策について説明できる。自らの考えについてコミュニケーションスキル、情報リテラシーを駆使しながら、自在に表現し、発信することができる。
主体性	◇ 2019人間健康DP3	自己で行える環境対策への取り組みについて意見が述べられる。基礎学力を基盤とした専門知識と自らの経験を基に創造的に考え、問題を的確に判断することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
		40%	50%	10%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

本科目の評価は次の4つの視点で授業内を行う。1. レポート : (1) 講義前半で新聞などから環境問題で話題となっている話題を取り上げ保健の視点からレポートする。(2) 環境保健論の学びから自分ができる環境への取り組みについてレポートする。2. ペーパーテスト: 毎回行う小テストからの問題をテストする。(3) 授業参加・貢献度: 学びの姿勢、質問への対応など (1) 30% (2) 60% (3) 10%の割合で評価する。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	日本成人予防協会「健康管理士」一般指導員テキスト5 *健康管理士希望者 資料を適宜配布	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	厚生統計協会編 国民衛生の動向	
2	細川洋 箕輪真澄 社会・環境と健康 公衆衛生 医歯薬出版株式会社	978-4-263-70498-1
3	日本医師会編 環境による健康リスク 日本医師会 発行 診断と治療社	978-4-7878-2307-6
4		
5		